



1_女性消防団員と一緒に消火訓練をする市民 2_竹と毛布を使った簡易担架を福岡中学生が体験 3_鷹巣・旭町自主防災組織主催の気象台出前講座 4_自衛隊による給水訓練 5_白石市婦人防火クラブによる炊き出し訓練 6_白石市消防団小原分団のつなぎポンプ訓練



地域の状況に応じたさまざまな訓練を実施！

平成29年度 白石市総合防災訓練

Interview 今年の防災訓練の感想や今後の課題を伺いました。

災害はいつでもやって来る！

旭町自治会長 小川 昇さん

昨年、大雨で苦労した経験のある旭町地区にとって、今回の気象台出前講座は大変有意義な内容でした。災害は地震だけでなく、大雨や噴火などさまざまです。「災害はいつでも来る」という心構えで、各家庭が防災用品を備えるなど、防災に対する意識向上を図っていきたいと思います。

一人ひとりが身近なことから

白石市消防団 遠藤 恵美子さん

私たち女性団員はまだ訓練の技量が足りていませんが、同じ団員や消防署員の指導を受け、日々向上に努めています。防災は一人ひとり身近なことから取り組むことが大切です。自分や家族だけでなく、近所の方々にも目を配れるようになれば、地域の防災意識も高まっていくと思います。



白石市長 山田 裕一

今年度もすべての地区において、自主防災組織や自治会、小中学校などの指定避難所の施設管理者、そして市職員が連携した、指定避難所の開設・運営訓練を実施いたしました。訓練の参加者も3,000人を超えるなど、あらためて市民の皆さんの防災への意識、関心の高さが感じられました。今回の防災訓練の内容を検証し、今後の防災行政に生かしていくとともに、来年度の訓練をさらによりよいものとするべく努めてまいります。

今年も、自衛隊による炊き出しや給水訓練、消防署による救急訓練、警察署による防犯講話など、関係機関には実践的かつ効果的な訓練を実施いただきました。それぞれの機関での訓練に対する熱意とそれに参加している市民の皆さんの真剣な心構えが伝わってまいりました。市といたしましても、地域住民の安全・安心を守るべく、災害に強いまちづくりの推進に一層努力してまいります。皆様のご協力をお願いいたします。

6月11日、平成29年度白石市総合防災訓練を市内の指定避難所などで実施しました。「午前8時、白石市内で震度6弱の地震を観測した」という想定のもと、各自主防災組織や各自治会が独自にシナリオを作成し、「避難・安否確認訓練」「初期消火訓練」などさまざまな訓練を行いました。

市では、防災メールにより直ちに市職員を非常招集し、午前8時25分に災害対策本部を設置。防災無線で各地区公民館などから施設被害状況や職員の参加状況などが報告されました。各自主防災組織や各自治会では、一時避難場所へ避難した段階で、平成27年度に全戸配布した「安否確認フラッグ」を活用して地域住民の安否確認を行い、その後、指定避難所への避難や被害状況の調査などを開始。市職員は「初動マニュアル」に基づき、情報収集や伝達、避難経路確保、各自主防災組織・各自治会と連携して避難所の開設・運営を行いました。

白石市では、平成26年度から、各地区で一時避難場所への避難訓練と市内すべての指定避難所の開設・運営訓練を行ってまいりました。これは、今年で6年を経過した「東日本大震災」を教訓に、

災害発生初期に、地域住民や自主防災組織・自治会の皆さん、指定避難所となる施設の職員などとの連携した訓練を実施することで、迅速で確かな行動と相互の協力体制の確立、地域住民の防災意識の高揚、防災技術の習得を図るためです。

今回の訓練には、各指定避難所などに3,000人を超える市民などが参加。避難所使用スペースの区割りや発電機の設置、避難者受付場所の設置、施設の安全確認や簡易トイレの設置、災害用無料公衆電話の設置訓練、災害時伝言ダイヤル（171）の使用訓練、食料・物資の保管や配布などの訓練が行われました。

また、市民の皆さんによる訓練に加え、東北電力株式会社白石営業所による停電復旧訓練や陸上自衛隊による給水訓練・炊き出し訓練、白石警察署による防犯講話、消防署と消防団による初期消火訓練・救急訓練が行われました。さらに、白石市医師会などの協力を得て行われた「診察可」の黄色いフラッグの掲示、災害時の協力協定を締結している東北カーブトン株式会社による段ボールベッド設置訓練、公益社団法人宮城県トラック協会仙南支部による物資輸送訓練を実施しました。